

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
人間の尊厳と自立		講義	佐々木 幸		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

1. 介護福祉士国家試験の【人間の尊厳と自立】の出題範囲の知識を修得していく。2. 同上の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。3. 上記の過程を通して、介護福祉士に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 人間の尊厳の意義及び介護における尊厳の保持について理解する。2. 自立の概念を理解し、介護における自立支援の必要性について理解する。3. 人権の歴史的経緯を理解し、権利擁護の重要性を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 介護福祉士国家試験の出題範囲の知識を修得している。2. 上記の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。3. 以上の過程を通して、介護福祉士に求められる基礎的知識・技術、豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション；シラバス提示と授業展開及び評価基準の説明と合意。
2	人間の尊厳と自立の意義①；人間の理解・人間の尊厳の意義
3	人間の尊厳と自立の意義②；自立の意義・自立と自律・人間の尊厳と自立
4	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み①；人権・尊厳と自立の思想と歴史的経緯
5	【事例検討】「生命への畏敬」人権・尊厳・自立の思想とその歴史的経緯
6	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み②；人権・尊厳と自立に関する諸規定
7	人間の尊厳・自立と生活①；生活における尊厳と自立
8	人間の尊厳・自立と生活①；生活を通してみる人間の尊厳と自立
9	介護における尊厳保持と自立支援の理論①；介護における権利擁護と人権尊重
10	【事例検討】「アイデンティティ喪失からの脱却」生きる勇気の回復とより良き人生
11	介護における尊厳保持と自立支援の理論②；権利侵害と権利擁護
12	介護における尊厳保持と自立支援の理論③；介護における自立支援=ICF=
13	介護における尊厳保持と自立支援の実践①；介護における尊厳保持の実践自立支援の実践
14	介護における尊厳保持と自立支援の実践②；自立支援の実践・心を動かす介護
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

1. 新・介護福祉士養成講座『人間の理解』（中央法規） 2. 『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）

1. 小テスト；70%、 2. 授業態度・意欲；30%

(試験やレポートの評価基準など)

1. 小テスト；5点×14回=70点 2. 授業態度；2点×15回=30点

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

利用者の主体的な生活を支援していくために利用者理解が不可欠である。利用者の思いや意欲を引き出すコミュニケーション能力が必要となる。また、チームケア、多職種連携を実践するには利用者の共通理解を促すコミュニケーション能力が必要となる。利用者の生活支援に必要な基礎的なコミュニケーション技法を身に付けることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

支援者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

支援・自己理解や他者理解から人間関係の形成について考えることができる。  
 ・信頼される人間を具体的にイメージでき人間関係の在り方を理解することができる。  
 ・自分の思いや考えを整理してわかりやすく説明することができる。  
 ・他者が自分のことを緊張することなく話ができるように傾聴を主体としたコミュニケーションが図れることができる。  
 者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の目的・概要説明）、自己紹介
2	人間と人間関係（講義・演習）
3	対人関係におけるコミュニケーション（講義・演習）
4	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
5	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
6	組織におけるコミュニケーション①（講義・演習）
7	組織におけるコミュニケーション②（講義・演習）
8	介護実践におけるコミュニケーション①（講義・演習）
9	介護実践におけるコミュニケーション②（講義・演習）
10	ケアを展開するためのチームマネジメント①（講義・演習）
11	ケアを展開するためのチームマネジメント②（講義・演習）
12	ケアを展開するためのチームマネジメント③（講義・演習）
13	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①（講義・演習）
14	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②（講義・演習）
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント（講義・演習）

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

・最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」中央法規 ・ナツメ社 「介護用語辞典」	授業参加態度、レポートなどを総合的に判断する。
	（試験やレポートの評価基準など）
	授業参加態度（授業への参加度、発言、積極性）課題レポート（内容、期日）

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会保障論	講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

前期は、社会保障というものが国民の生活にどう影響しているのか、どのような役割を果たしているのか、包括的に理解することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

基本的に、テキストに沿って進める。予習をしていることを前提に授業を進めるので、事前にテキストを読んでくること。また、社会保障は範囲も広く複雑なので、復習も必須。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

そもそも社会保障とは何なのか、なぜ必要なのか、国民1人1人の生活にどう関係するのか、また何が課題なのかを理解すること。

コマ数	内 容
1	ガイダンス：授業内容の説明および概説
2	社会保障とは何か
3	生活と社会福祉 (1) 家族とは何か
4	生活と社会福祉 (2) 社会と個人
5	生活と社会福祉 (3) 社会の仕組み
6	日本の社会保障制度の仕組み (1) 社会保障の役割と意義
7	日本の社会保障制度の仕組み (2) 社会保障制度の発展
8	日本の社会保障制度の仕組み (3) 現代社会と社会保障
9	社会扶助と社会保険：それぞれの仕組みと制度の違い
10	社会保険制度 (1) 国民年金と厚生年金
11	社会保険制度 (2) 医療保険
12	社会保険制度 (3) 介護保険制度創設
13	総括と試験対策
14	総括と試験対策
15	最終試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

独自プリント	リアクションペーパー、最終試験の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	リアクションペーパー50%、最終試験50%

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
高齢者と障害者の福祉制度Ⅰ		講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

1. 介護福祉士の業務遂行に必要な「介護保険制度」の知識を習得する。
2. 同上の知識が介護の実践場面において、どのように活用され、また課題を抱えているか理解していく
3. 介護福祉士が従事する制度を正しく理解し、公助・共助の連携の中で介護福祉士に求められる役割を理解する。

[授業全体の内容の概要]

1. 介護保険制度の基礎的枠組みを理解する。
2. 介護保険利用の手続きの方法から、サービス内容を理解する。
3. 介護保険制度の動向を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 介護福祉に必要な「介護保険制度」の知識を習得している。
2. 介護福祉士が従事する場において、介護保険制度がどのような役割を担っているのか理解できている。
3. 介護保険制度の利用手続きから、サービスの内容まで正しく理解できている。

コマ数	内 容
1	介護保険制度創設の背景と目的
2	介護保険制度のしくみの基本的理解① 保険者と被保険者について 財源について
3	介護保険制度のしくみの基本的理解② 介護保険制度における保険給付 利用者負担について
4	介護保険制度のしくみと基本的理解③ 介護保険サービスの利用手続き
5	介護保険サービスの種類と内容① 居宅サービス・予防サービス
6	介護保険サービスの種類と内容② 施設サービス・地域密着型サービス
7	介護保険サービスの種類と内容③ 地域支援事業
8	介護保険サービスの種類と内容④ 利用者の権利を守る仕組み・地域包括ケアを支えるしくみ
9	介護保険制度における組織、団体の役割① 国・県市の役割
10	介護保険制度における組織、団体の役割② 国保連・各事業者
11	介護保険制度における介護支援専門員の役割
12	介護保険制度の動向① 介護保険法改正その1
13	介護保険制度の動向② 介護保険法改正その2
14	介護保険制度の動向③ 介護保険法改正その3
15	期末試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉士養成講座2 「社会の理解」	1. 定期試験による評価80% 2. 授業に臨む姿勢・出席と遅刻の状況20%
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
地域社会と福祉	講義	小西 英範		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

- ・ 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活を社会の関係性を体系的にとらえる
- ・ 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基本的な知識を習得する

[授業全体の内容の概要]

【当事者からの聞き取りや支援プログラムの作成などを個人ワーク→グループワークで相互で学びあう】

①社会と生活のしくみ

生活の基本機能／ライフスタイルの変化／家族／社会、組織／地域、地域社会

②地域共生社会の実現に向けた制度や施策

地域社会における生活支援地域福祉の発展／地域共生社会／地域包括ケア

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・ 個人・家族・地域・社会のしくみと地域における生活の構造を理解できる
- ・ 生活と社会のかかわりや自助・互助・公助の展開について理解できる
- ・ 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方を理解できる
- ・ 地域共生社会の実現のための制度や施策を理解できる

コマ数	内 容
1	授業ガイダンス「地域社会と福祉」の学び方
2	社会と生活のしくみ①生活を幅広くとらえる
3	社会と生活のしくみ②生活の基本機能
4	社会と生活のしくみ③ライフスタイルの変化
5	社会と生活のしくみ④家族の機能と役割
6	家族で楽しく暮らす【事例検討】
7	社会と生活のしくみ⑤社会・組織の機能と役割
8	社会と生活のしくみ⑥地域・地域社会
9	社会と生活のしくみ⑦地域社会における生活支援
10	地域で楽しく暮らす【事例検討】
11	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①地域福祉の発展
12	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②地域共生社会
13	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③地域包括ケア
14	生活を支える基本システム【事例検討】
15	筆記テスト、まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）

小テスト、期末テスト、課題レポート、授業態度（出席を含む）、を勘案  
（試験やレポートの評価基準など）

合計60点以上で単位取得とする

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅰ	演習	佐々木 幸		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

老化や障がいの有無に関わらず、生活を営む者としてその人らしく生きることの意義について理解する。

[授業全体の内容の概要]

自分自身の生活をも含め、講義およびグループワークを通して生活の特性を学び、基本的な理解を深める。その上で、介護を必要とする人それぞれのその人らしさを大切にすることを学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

生活についての基本的な理解ができる。また、介護を必要とする人のその人らしさを理解し、個々の生活ニーズを考えることができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	私たちの生活の理解① 生活とは何か
3	私たちの生活の理解② 生活にとって大切な要素
4	私たちの生活の理解③ 生活の特性
5	私たちの生活の理解④ 生活活動についての理解
6	私たちの生活の理解⑤ 違い、変化のある生活についての理解
7	介護を必要とする人の理解① 高齢者や障がいのある人たちの暮らし
8	介護を必要とする人の理解② 高齢者や障がいのある人たちの介護
9	介護を必要とする人の理解③ その人らしさの背景
10	介護を必要とする人の理解④ 生活様式、生活文化の多様性
11	介護を必要とする人の理解⑤ 利用者と生活環境
12	介護を必要とする人の理解⑥ 利用者にあった介護機器や生活用品
13	介護を必要とする人の理解⑦ 生活障がいの理解
14	介護を必要とする人の理解⑧ 生活ニーズの理解
15	まとめ・試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本	授業への参加状況・各種提出物・グループ討議・ 期末テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅱ	演習	佐々木 幸		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第1学年	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

介護の歴史や考え方を理解し、生活支援の視点に基づき介護の役割や専門性を学ぶ。さらに、尊厳を支える介護を理解し、介護の展開に必要なICF、リハビリテーションの考え方を学ぶ。

**[授業全体の内容の概要]**

介護福祉士としての基本的な視点および利用者の尊厳、自立支援のあり方を講義およびグループワークを通して学ぶ。

**[授業終了時の達成課題（到達目標）]**

介護の成り立ち、生活支援としての介護の役割や専門性を理解できる。また、尊厳ある介護のあり方を習得できる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	自立にむけた介護① 介護の成り立ち
3	自立にむけた介護② 「介護」の見方・考え方の変化
4	自立にむけた介護③ 利用者に合わせた生活支援
5	自立にむけた介護④ 自立に向けた支援・介護の専門性
6	自立にむけた介護⑤ 「介護観」とは「衰え」や「死」を見すえたもの
7	自立にむけた介護⑥ 介護の仕事の本質的価値・介護の専門性
8	介護のはたらきと基本的視点① 介護職が行う生活支援
9	介護のはたらきと基本的視点② 介護職が行う生活支援
10	介護のはたらきと基本的視点③ 身体介護とその意義
11	介護のはたらきと基本的視点④ 身体介護とその意義
12	介護のはたらきと基本的視点⑤ 家事支援とその意義
13	介護のはたらきと基本的視点⑥ 家事支援とその意義
14	介護のはたらきと基本的視点⑦ 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義
15	介護のはたらきと基本的視点⑧ 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本	授業への参加状況・各種提出物・グループ討議・ 期末テスト (試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
コミュニケーション技術Ⅰ	講義	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

要介護者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、要介護者やその家族、他職種とのコミュニケーション能力を身につける。

**[授業全体の内容の概要]**

コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。自己洞察する手段として自己覚知より対象者理解を深める。

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。②さまざまな介護場面でのコミュニケーションのとり方を習得する。

コマ数	内 容
1	コミュニケーションとは
2	介護におけるコミュニケーションの役割
3	他者を深く理解するためのコミュニケーション
4	コミュニケーションワーク①（傾聴）
5	コミュニケーションワーク②（傾聴）
6	コミュニケーションワーク③（察する）
7	コミュニケーションワーク④（察する）
8	コミュニケーションワーク⑤（他者理解）
9	コミュニケーションワーク⑥（他者理解）
10	介護におけるコミュニケーション①（チームワーク）
11	介護におけるコミュニケーション②（チームワーク）
12	介護における相談・助言にについて
13	利用者と家族の意向調整
14	介護における他職種連携
15	コミュニケーション技術まとめ

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

第1巻「人間の理解」中央法規

平常点（出席状況、授業態度、提出物）小テスト、及び筆記・実技テスト  
 （試験やレポートの評価基準など）

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
コミュニケーション技術Ⅱ	講義	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

要介護者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、要介護者やその家族、他職種とのコミュニケーション能力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。さまざまな介護場面を想定したロールプレイにより対象者理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

① 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。 ②さまざまな介護場面でのコミュニケーションのとり方を習得する。 ③利用者の特性に応じたコミュニケーションの方法を習得する。 ④さまざまなコミュニケーション技法を、実習等の体験を通して理解を深める。 ⑤介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告などについて学び、その技術を習得する。

コマ数	内 容
1	介護場面におけるコミュニケーション
2	利用者の特性に応じたコミュニケーション～コミュニケーション障害の理解
3	利用者の特性に応じたコミュニケーションのまとめ
4	介護におけるチームのコミュニケーション①
5	介護におけるチームのコミュニケーション②
6	報告・連絡・相談①～スーパービジョンの意義・目的
7	報告・連絡・相談②～スーパービジョンの実際
8	報告・連絡・相談③～スーパービジョンの実際
9	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際①～失語症・構音障害
10	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際②～認知症のある人
11	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③～視覚障害のある人
12	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④～聴覚障害のある人
13	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤～知的障害・精神障害のある人
14	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥～高次脳機能障害のある人
15	コミュニケーション技術のまとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術	授業態度、レポート提出等総合的に評価し、60点以上を合格とする。 (試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅰ（基礎技術①）	演習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人を尊重し、自立した「生活」を支えるための専門職としての介護の知識・基本的技術を習得する

[授業全体の内容の概要]

各单元ごとに①講義（専門的知識の習得）、②介護技術（介助方法－観察・コミュニケーション・手順等）の演習、③記録（振り返り）の形式にて授業を展開

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

人間にとって生活とは何かを考え理解し、対象者の人生観を尊重した介助が実践できるようになる。「根拠」の基づいた基本的介護技術の習得

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の進め方等）
2	環境整備
3	生活支援技術の基本原則、ボディメカニクス
4	単元テスト ベッドメイキング
5	移動の介護 意義と目的
6	移動の介護 介護技術（仰臥位から端座位）
7	移動の介護 車いす移乗
8	移動の介護 介護技術（歩行介助）
9	身支度の介護 意義と目的
10	身支度の介護 衣服の着脱（臥床時の介助）
11	食事の介護 意義と目的
12	口腔ケア
13	前期まとめ
14	筆記試験
15	実技テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座7 『生活支援技術Ⅱ』（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』（中央法規）	実技テスト 40%、演習時の参加度等 10%
	(試験やレポートの評価基準など)
	筆記試験 40%、課題提出 10%

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅱ（基礎技術②）	演習	小松 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
45コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人を尊重し、自立した「生活」を支えるための専門職としての介護の知識・基本的技術を習得する

[授業全体の内容の概要]

各單元ごとに①講義（専門的知識の習得）、②介護技術（介助方法—観察・コミュニケーション・手順等）の演習、③記録（振り返り）の形式にて授業を展開

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

人間にとって生活とは何かを考え理解し、対象者の人生観を尊重した介助が実践できるようになる。「根拠」に基づいた基本的介護技術の習得

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	入浴・清潔保持の介護 意義・目的
3	入浴・清潔保持の介護 部分浴(足浴)
4	入浴・清潔保持の介護 機械浴・一般浴(女子)
5	入浴・清潔保持の介護 機械浴・一般浴(男子)
6	入浴・清潔保持の介護 振り返り
7	排泄の介護 意義・目的
8	排泄の介護 トイレ誘導・介助
9	排泄の介護 尿器・便器
10	排泄の介護 おむつ体験発表
11	排泄の介護 その他の介助
12	睡眠の介護(意義と目的)
13	整容の介護 爪切り
14	筆記試験
15	実技試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座7 『生活支援技術Ⅱ』（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』（中央法規）	実技テスト 40%、演習時の参加度等 10%
	(試験やレポートの評価基準など)
	筆記試験 40%、課題提出 10%

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
介護過程 I		講義	長田 淳子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

介護を行うにあたり、生活課題・ニーズをみつけ、それを解決していく過程を展開することができる。介護の知識と技術を統合して専門職としての介護過程の展開ができる思考過程を身につける。

[授業全体の内容の概要]

介護過程における一連のプロセスを理解でき、ICF理論を踏まえたアセスメントの考え方、方法を習得できるように授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・介護過程の展開を説明することができる。
- ・ICF理論とアセスメントの関係性について説明することができる。

コマ数	内 容
1	生活支援の考え方と「介護過程」の必要性(1) (講義・演習)
2	生活支援の考え方と「介護過程」の必要性(2) (講義・演習)
3	介護過程の意義 (講義・演習)
4	介護過程の目的 (講義・演習)
5	介護過程の展開 (講義・演習)
6	「介護過程」の全体像(1) (講義・演習)
7	「介護過程」の全体像(2) (講義・演習)
8	「介護過程」におけるアセスメントとは(1) (講義・演習)
9	「介護過程」におけるアセスメントとは(2) (講義・演習)
10	「介護過程」における情報の収集(1) (講義・演習)
11	「介護過程」における情報収集(2) (講義・演習)
12	「介護過程」における情報の解釈・関連付け・統合(1) (講義・演習)
13	「介護過程」における情報の解釈・関連付け・統合(2) (講義・演習)
14	「介護過程」における課題の明確化(1) (講義・演習)
15	「介護過程」における課題の明確化(2) (講義・演習)

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座9 介護過程	レポート、小テスト、グループワーク、授業態度などを総合的に判断する
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅱ	講義	長田 淳子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	4 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護を行うにあたり、生活課題・ニーズをみつけ、それを解決していく過程を展開することができる。介護の知識と技術を統合して専門職としての介護過程の展開ができる思考過程を理解して自分で作成することができる。

[授業全体の内容の概要]

介護過程における一連のプロセスを理解でき、ICF理論を踏まえたアセスメントの考え方、方法を習得できるように授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・介護過程の展開を説明することができる。
- ・ICF理論とアセスメントの関係性について説明することができる。
- ・自分で介護計画を立案することができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・前期振り返り（アセスメント他）。目的論・対象論・実習中の観察・実習振り返り
2	情報用紙の書き方①
3	情報用紙の書き方②
4	情報の解釈、分析、関連づけ、統合化①
5	情報の解釈、分析、関連づけ、統合化②
6	事例ケース① 情報収集の方法
7	事例ケース① アセスメント方法講義及びグループワーク
8	事例ケース① アセスメント
9	事例ケース① ケアプラン作成
10	事例ケース① グループ発表及び振り返り
11	事例ケース② 介護過程（情報収集からケアプラン作成方法講義）
12	事例ケース② アセスメント
13	事例ケース② ケアプラン作成
14	事例ケース② グループ発表
15	まとめ及び学期末テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 , 用語辞典・福祉ナビ

授業態度、積極性・小テスト・グループワーク参加状況、学期末試験

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅰ	演習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第1学年	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

介護実習Ⅰに向けて各専門科目で得た知識・技術を学生自身が実習で活用できるような心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、実践力を身につけることができるようにする。実習後は十分に振り返りを行い、実習Ⅱをより効果的に進めるようにする。

**[授業全体の内容の概要]**

講義や演習（ワークシートによる個別ワーク、グループワーク）を通して、学生の気付きを促しつつ疑問や不安を解決しながら実習の準備を進めていく。施設見学や現場体験を通じ学習意欲を高め、実習へ向けての不安を軽減する。学生自身が学習成果の発表に参加する機会を持つことで体験の言語化、プレゼンテーション能力の向上につなげる。

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

・居宅、通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像を理解でき、介護福祉士としての役割を明確化できる。・基本的なマナー及び他者理解に必要な基本的コミュニケーションの方法、記録の取り方を習得する。・実習に対して、学生自身の目標や学習課題を明確化・言語化できる。

コマ数	内 容
1	介護総合演習の位置づけ・目的
2	介護実習の意義と目的
3	実習先の概要①実習先の全体像
4	実習先の概要②施設体験(校外活動) 見学 全体
5	実習先の概要③施設体験(校外活動) 施設体験 個人
6	実習先の概要 発表①
7	実習先の概要 発表②
8	実習先の概要まとめ
9	介護実習Ⅰ-1 実習にあたって(実習目標の作成)
10	介護実習Ⅰ-1 自己紹介書の書き方
11	模擬論文発表会参加
12	実習先の概要
13	記録の書き方①
14	記録の書き方②
15	実習前オリエンテーション(実習にあたっての心構え・注意点)

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、介護福祉用語辞典・社会福祉小六法

出席、グループワークへの取り組み、発表態度、小テストなどの総合評価  
(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅱ	演習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護実習Ⅱ-1に向けて心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習において実践力を身につけることができるようにする。実習後は十分な振り返りを行い、実習Ⅱ-2における生活支援技術の実践、介護過程の展開がより効果的に行えるようにする。

[授業全体の内容の概要]

介護実習Ⅰにおいて明確化した課題の克服に向け、主に演習（ワークシートによる個別ワーク、グループワーク）を通して、実習及び学内での学びの統合化を図りながら、介護福祉士として必要な知識および技術のより一層の向上を目指す。Ⅱ-1に向けて後半はゼミ形式をとる。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

実習施設の社会的役割と利用者の生活ニーズの理解を通して、介護福祉士に求められる価値・倫理・専門性を理解できる。介護実習Ⅰの振り返りから自己を客観的に見つめ、実習Ⅱ-1に向けた自己課題を明確化できる。介護実習Ⅱ-1において介護過程の展開を行う上で情報収集の必要性の意味および方法を理解できる。

コマ数	内 容
1	介護実習Ⅰの振り返り① 個人
2	介護実習Ⅰの振り返り② 施設別グループ
3	介護実習Ⅰの振り返り③ 発表／実習評価スーパービジョン
4	介護実習Ⅰの振り返り④ 発表
5	記録について① 情報収集シートとプロセスレコード
6	記録について② 情報収集シートとプロセスレコード
7	実習Ⅱ-1事前学習① 実習の意義、目的
8	実習Ⅱ-1事前学習② 実習先の概要
9	実習Ⅱ-1事前学習③ 実習ファイル作成 自己紹介書、実習目標の記入
10	実習Ⅱ-1事前学習④ 自己紹介 実習Ⅱ-1のねらい確認 ゼミグループスタート
11	実習Ⅱ-1事前学習⑤ 自己紹介書・目標清書完成
12	実習Ⅱ-1事前学習⑥ 実習配置確認 3週間目標
13	実習Ⅱ-1事前学習⑦ 情報収集シートと実習目標
14	実習Ⅱ-1事前学習⑧ 実習前スーパービジョン
15	実習Ⅱ-1事前学習⑨ 実習にあたっての心構え・注意点 実習前オリエンテーション

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、介護福祉用語辞典・社会福祉小六法	出席、グループワークへの取り組み、発表態度、小テストなどの総合評価 (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。
---	--

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護実習 I	実習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
23日間	5 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、積極的なコミュニケーション実践を通して利用者理解に努める。基本的な介護技術を確認するとともに、傷害の特性、利用者の状況に応じた介護方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

①施設・事業所の一日の流れを体験する。②基礎的な介護業務を体験する。③施設内の各種プログラムを見学し、参加する。④実習日誌の記載ができる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ①介護福祉士としての基本的姿勢を持つことができる。
- ②実習施設の理解ができる。
- ③利用者理解の取り組みができる。
- ④職業倫理を意識した実習を行える。
- ⑤必要な記録類を作成することができる。
- ⑥利用者の集団活動への参加ができる。

マ数	内 容
1	介護福祉士としての基本的姿勢を持つことができる。
2	実習施設の理解ができる。
3	利用者理解の取り組みができる。
4	職業倫理を意識した実習を行える。
5	必要な記録類を作成することができる。
6	利用者の集団活動への参加ができる。
7	介護職および多職種の役割を理解する。
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」、ナツメ社「介護用語辞典」	施設からの実習評価、実習ファイルの提出、巡回時の評価、所定時間の出席 (試験やレポートの評価基準など)
総合評価で60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅱ-1	実習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15日間	1 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

- ①利用者の日常生活の介護を行う。②介護過程の基礎的展開を行う。③早番、遅番、夜勤などの変則勤務を体験する。  
④医療・栄養・相談などの介護分野以外の業務内容を見学、体験する。

[授業全体の内容の概要]

- ①利用者の日常生活の介護を行う。②介護過程の基礎的展開を行う。③早番、遅番、夜勤などの変則勤務を体験する。  
④医療・栄養・相談などの介護分野以外の業務内容を見学、体験する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

実習Ⅰの目標に加え、生活支援技術の核分野において利用者のニーズに合わせた実践ができる、介護過程の基礎的な展開を実施できる。

コマ数	内 容
1	一つの施設において継続して実習を行い以下の体験をする。
2	実習先種別：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設。
3	要介護高齢者の日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解する。
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」、ナツメ社「介護用語辞典」

施設からの実習評価、実習ファイルの提出、巡回時の評価、所定時間の出席

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
発達と老化の理解 I	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

成長と発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージする。その上で、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす経済的な不安など高齢者の気持ちについて深く理解する。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・高齢者に多い疾病と症状の現れ方の特徴を医療の面から学び、生活場面の中での個人差を知ることができる。・高齢者に現れる症状を学び、医療職との連携について理解することができる。・利用者の自立に向けた生活支援の根拠であることを理解する。・学んだ知識を実習において実践できる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・シラバス説明      ライフサイクルワークシート
2	第1章人間の成長と発達の基礎的理解      I 成長と発達
3	第1章人間の成長と発達の基礎的理解      II 発達理論
4	第1章人間の成長と発達の基礎的理解      III 形態的成長と身体機能の発達
5	第2章社会から見た老年期
6	第2章社会から見た老年期
7	第3章ライフサイクルのなかの老年期
8	第3章ライフサイクルのなかの老年期
9	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活      機能低下と日常生活への影響
10	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活      低下の予防
11	第4章老化に伴うところとからだの変化と日常生活      低下の予防
12	第5章高齢者の心理      I 気持ちの理解
13	第5章高齢者の心理      II 高齢者の気持ち
14	第5章高齢者の心理      III 高齢者とのかかわり
15	科目修了試験（筆記試験）

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解

・出席状況：20%以上欠席でE判定・小テスト：確認テスト及び感想 40%

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
発達と老化の理解Ⅱ	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

成長と発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージする。その上で、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす経済的な不安など高齢者の気持ちについて深く理解する。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・高齢者に多い疾病と症状の現れ方の特徴を医療の面から学び、生活場面の中での個人差を知ることができる。・高齢者に現れる症状を学び、医療職との連携について理解することができる。・利用者の自立に向けた生活支援の根拠であることを理解する。・学んだ知識を実習において実践できる。

コマ数	内 容	
1	オリエンテーション・シラバス説明	
2	高齢者に多い症状・病気とその留意点	
3	高齢者に生じやすい症状や病気	かゆみ・褥瘡
4	高齢者に生じやすい症状や病気	意識障害・発熱
5	高齢者に生じやすい症状や病気	脱水・深部静脈血栓症
6	高齢者に生じやすい症状や病気	移動能力の低下
7	高齢者に多い病気と留意点	糖尿病
8	高齢者に多い病気と留意点	脂質異常症と心筋梗塞
9	高齢者に多い病気と留意点	高血圧
10	高齢者に多い病気と留意点	脳卒中
11	高齢者に多い病気と留意点	大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症
12	高齢者に多い病気と留意点	肺炎
13	高齢者に多い病気と留意点	多職種連携
14	事例検討	
15	科目修了試験（筆記試験）	

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解

・出席状況：20%以上欠席でB判定      ・小テスト：確認テスト及び感想

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
認知症の理解 I	講義	利根川 都子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

認知症に関する理解を深め、認知症の人の生活支援方法を考えることにより、その人らしい生活を支えていく能力を養う。

**[授業全体の内容の概要]**

・ビデオ、書籍などを通して認知症の理解を深める。・ロールプレイングやグループ討議の中で、認知症の人に関わる際の基本的姿勢を理解する。

**[授業終了時の達成課題（到達目標）]**

・認知症の定義、病態を理解し、類似した状態と区別ができる。・認知症の人への対応、支援のあり方を理解する。

コマ数	内 容
1	認知症との関わり 良性健忘と認知症の違い グループワーク
2	良性健忘と認知症の違い 発表
3	認知症の定義・中核症状 I
4	認知症の中核症状 II
5	BPSD I
6	BPSD II
7	認知症に類似した状態 せん妄
8	認知症に類似した状態 うつ病
9	認知症に類似した状態 MCI
10	アルツハイマー型認知症の進行
11	アルツハイマー型認知症の治療・ケア
12	血管性認知症
13	レビー小体型認知症
14	前頭側頭型認知症
15	治る認知症 まとめ

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	授業態度とテスト (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。
-----------------------	---

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅠ	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
8コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション こころとからだのしくみを学ぶ目的 「健康」とは何か
2	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ①細胞・遺伝
3	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ②身体各部 ⑤内臓の名称
4	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ③脳・神経系
5	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ④感覚器
6	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ⑥呼吸器
7	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ ⑦循環器
8	科目終了試験
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
こころとからだのしくみ(中央法規)、得意になる解剖生理(照林社)	定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅡ	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

コマ数	内 容	
1	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑧消化器
2	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑨泌尿器
3	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑩骨・筋肉 ⑪骨・関節の動き
4	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑫筋肉の動き ⑬神経系のはたらき
5	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑭生殖器・内分泌
6	第2章 からだのしくみを理解する	第1節 からだのしくみ ⑮血液・体液・リンパ
7	関連する役割、および薬の知識 ①心身の調和 ②生命の維持と恒常性のしくみ	
8	移動に関連したこころとからだのしくみ	第1節 移動のしくみ
9	移動に関連したこころとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
10	移動に関連したこころとからだのしくみ	第3節 変化の気づきと対応
11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	第1節 身じたくのしくみ
12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
13	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	第3節 変化の気づきと対応
14	科目終了試験	
15	まとめ・ふりかえり	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
こころとからだのしくみ(中央法規)、得意になる解剖生理(照林社)	定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケア I	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	4 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケア」を実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につなげる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論③
2	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論④
3	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑤
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑥
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 概論⑦
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説①
7	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説②
8	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説③
9	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 実施手順解説④
10	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論①
11	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論②
12	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論③
13	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論④
14	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論⑤
15	高齢者及び障害児・者の経管栄養 概論⑥

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア	レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以上
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
基礎ゼミナール I	演習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

自分特有の考え方や表現方法について気づく。また、自分の考えを分かりやすく説明すること、他の人の考え方を聴くこと、議論することを通し、自分の考えを文章化することを目的とする。対人援助の専門職の基礎能力として求められる観察能力、感性を高めるとともに、それを文章化し伝える能力を習得する。

[授業全体の内容の概要]

各担当教員の専門領域からのトピックについて考え、議論し、文章化する。必要に応じて自分の考えを裏付ける資料を作成することも求める。5~6回のオムニバス形式で実施する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

言葉で説明すること、文章で表現することを学び、それを実習記録や卒業論文につなげる。

コマ数	内 容
1	トピック1：自由に考えを述べる
2	トピック2：議論する(ディベート)
3	トピック3：議論する(ディベート)
4	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
5	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
6	トピック1：自由に考えを述べる
7	トピック2：議論する(ディベート)
8	トピック3：議論する(ディベート)
9	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
10	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
11	トピック1：自由に考えを述べる
12	トピック2：議論する(ディベート)
13	トピック3：議論する(ディベート)
14	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
15	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

なし	発表への取り組み、出席、授業参加意欲、レポートの提出の総合評価。前
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
社会福祉現場実習指導Ⅰ		講義	栗田 陽子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	選択	○	

[授業の目的・ねらい]

相談援助の意義を理解する。さらに、個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識・技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。また、社会福祉専門職としての自覚を促し、求められている資質、技能、倫理、自己に求められる課題等を習得する。

[授業全体の内容の概要]

第1段階実習（体験実習）に向けて、講義、ビデオ学習、施設見学、グループ討議、自己学習により基本的事項を学び、実習前に必要な準備態勢を整える。また、考察を深めるためにレポートを作成する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①社会福祉施設の概要と社会的枠割を知る。②福祉現場の専門職の業務・役割を理解する。③施設で生活する利用者について理解する。④利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。⑤地域と施設の関係を考える視点を持つ。

コマ数	内 容
1	相談援助実習の意義と概要 実習指導における個別指導及び集団指導の意義・心構え
2	実習分野・実習先施設・機関に関する理解Ⅰ（高齢者の施設）ビデオ学習含む レポート提出
3	実習分野・実習先施設・機関に関する理解Ⅱ（知的障害者の施設）ビデオ学習含む レポート提出
4	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅰ（高齢者）ビデオ学習含む レポート提出
5	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅱ（知的障害者）ビデオ学習含む レポート提出
6	実習先の利用者及び介護等関連業務に関する理解Ⅲ（身体障害者）ビデオ学習含む レポート提出
7	実習先の利用者及び保育等関連業務に関する理解（自閉症児）ビデオ学習含む レポート提出
8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 施設利用者の権利擁護
9	施設見学事前学習（根拠・関連法令、事業内容、職員構成）
10	施設見学Ⅰ（高齢者施設） レポート提出
11	施設見学Ⅱ（障害者施設） レポート提出
12	実習生調書作成 実習先施設理解 実習目標の作成
13	実習要項の確認 巡回指導の理解 倫理・守秘義務等の理解
14	実習ファイル（実習記録）の意義 記録内容・記録方法・取り扱いに関する理解
15	第一段階実習事前指導 個別スーパービジョン 実習知識評価

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

なし

レポートの提出、グループ討議・授業への参加。相談援助実習を実施する

（試験やレポートの評価基準など）

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉援助技術演習	演習	栗田 陽子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第1学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]

自己理解・他者理解を基礎としながら、コミュニケーションに関わる様々な視点や技術を身につける。

[授業全体の内容の概要]

講義・演習を通して、自己や他者理解を深め価値観の差を学ぶ。また、グループワークやフィールドワークを行っていく中で、コミュニケーションを客観的に眺め、意図をもって目の前の人間と対峙する経験を積んでいただく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. コミュニケーションの基礎となる、読む力・書く力・発表する力を養う。2. コミュニケーション理論・技術を学び実践することで、根拠を伴った関わりの技術を身につける。3. グループワークを通して、役割行動や集団内での自分の在り方を客観視できるようになる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方・約束
2	ケースワークの援助過程
3	インテーク
4	アセスメント
5	プランニング・モニタリング・終結
6	関係機関のしくみ 連携の方法
7	グループワーク 面接の技術
8	グループワーク 事例検討
9	グループワーク 事例検討
10	グループワーク 事例検討
11	文書作成の技法
12	調査方法について
13	グループワーク 事例検討
14	振り返り テスト
15	後期試験 レポート

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

使用テキスト：なし、参考文献：社会福祉援助技術演習ワークブック、中学生・高校生・大学生のための自己理解ワークブック、エクササイズで学ぶ心理学～自己理解と他者理解のために～

参加態度・出席状況・研究課題・試験成績以上を元に、総合的に評価を行

(試験やレポートの評価基準など)

学生個人の価値観や個性を尊重する。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅢ	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

人体の構造と機能、こころの仕組みについて理解し、これに基づいた根拠ある生活支援が展開・実践できるようになる。また心身の状況がどのような要因から生じているのかを客観的に理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳ある適切な介護方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能についての知識や影響する老化・疾病・障害について学ぶ。またこころとからだのしくみが関連付けてイメージしとらえられるように、映像や図を使い理解していく。演習も行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践・展開に必要な観察力、判断力の基盤となるこころとからだの仕組みを理解する。人体に影響する老化・疾病・障害・心の健康について理解する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・説明
2	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ
3	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
5	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ
6	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
7	第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
8	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ
9	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
10	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
11	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ
12	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
13	第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応
14	科目終了試験
15	まとめ・ふりかえり

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
こころとからだのしくみ(中央法規)、得意になる解剖生理(照林社)	定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉現場実習	実習	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
12日間	2 単位	第1学年	選択	○

**[授業の目的・ねらい]**

社会福祉実践の現場に入り、施設や機関の果たす役割と機能を学び、社会福祉実践の意味や価値を考える。また、クライアントの抱える様々な課題を理解し、主体的に関わる。

**[授業全体の内容の概要]**

- ①実習施設の機能と職種、地域を対象とした取り組みを学ぶ
- ②クライアントと直接かかわることで、情報収集、アセスメント、支援計画の立案、実施でのソーシャルワークの展開過程を学ぶ
- ③多種職連携、期間連携、地域支援におけるアウトリーチ、ネットワーキングの実際を学ぶ

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

- ・ソーシャルワークの対象をミクロ、メゾ、マクロレベルで捉え、実践に生かす行動力を養う。
- ・学んだ実践技術を個別ニーズに即し活用できる実践力を養う。

コマ数	内 容
1	施設の理念、機能、機関としての役割、地域支援を学ぶ。
2	クライアントを担当し、情報収集、アセスメント、支援計画立案での一連のソーシャルワーク過程を学ぶ。
3	ケース会議等に参加し、多種職連携の実際を学ぶ。
4	関係機関会議等、機関連携を学び、アウトリーチ、ネットワーキング等実践技術を学ぶ。
5	実習指導者の指導を受けることで、スーパーバイズの実際を体験し、学ぶ。
6	学んだ実践技術を活用して、概念化、理論化し実習報告書としてまとめる。
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

<b>[使用テキスト・参考文献]</b>	<b>[単位認定の方法及び基準]</b>
なし	実習日誌、実習施設評価を総合して評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅲ	演習	小西 英範		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。さらに、リスクマネジメント、チームアプローチ等、利用者の安全、人権擁護に配慮した介護を実践する能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

社会福祉士及び介護福祉士法に基づく心身に応じた介護のあり方、また、介護に関連する社会保障制度、施策について講義及びグループワークを通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

あらゆる介護場面に今日つする基礎的な介護、チームアプローチ、人権擁護、職業倫理を身に付ける。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	介護サービスと介護福祉士のはたらく場⑧ 入所系サービス提供の場とその特性（高齢者関連）
3	介護福祉士とは① 介護問題の背景と介護福祉士制度
4	介護福祉士とは② 求められる介護福祉士像
5	介護福祉士とは③ 心身の状況に応じた介護を考える
6	介護福祉士とは④ 心身の状況に応じた介護を考える
7	介護福祉士とは⑤ 社会福祉士および介護福祉士法
8	介護福祉士とは⑥ 専門職能団体がかつ役割
9	介護福祉士とは⑦ 専門職能団体としての日本介護福祉士会
10	介護福祉士とは⑧ 介護実践における倫理
11	介護福祉士とは⑨ 介護実践における倫理
12	介護福祉士とは⑩ 日本介護福祉士会倫理綱領
13	介護サービスと介護福祉士のはたらく場① 介護サービスの意味と特性
14	介護サービスと介護福祉士のはたらく場② ケアマネジメントの意味と仕組み
15	介護サービスと介護福祉士のはたらく場③ ケアマネジメントの意味と仕組み

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ	授業への参加状況・各種提出物・グループ討議・小テスト・期末テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅳ	演習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

自身の健康管理を充分にし、利用者の健康、信頼、安心に配慮した姿勢を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

介護従事者が職業人として、自身の健康管理および仕事を長く続ける事の意義、重要性を講義、グループワークを通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

福祉を支える担い手として、専門性を発揮できる幅広い知識、技術を習得する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	介護に携わる人の健康管理① 介護という仕事の特徴
3	介護に携わる人の健康管理② 介護職の健康と介護の質
4	介護に携わる人の健康管理③ こころの健康管理
5	介護に携わる人の健康管理④ からだの健康管理
6	介護に携わる人の健康管理⑤ パーンアウト症候群について
7	介護に携わる人の健康管理⑥ さまざまな腰痛体操
8	介護に携わる人の健康管理⑦ 労働環境の整備・労働環境の改善
9	介護に携わる人の健康管理⑧ 労働安全の基本原則
10	介護福祉士を目指す皆さんへ① 介護を取り巻く状況の変化と自身の生活
11	介護福祉士を目指す皆さんへ② 専門職業人としての介護福祉士
12	介護福祉士を目指す皆さんへ③ 生活者としてあなた自身がよりよく生きる
13	授業の振り返り
14	まとめ
15	試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

介護福祉士養成講座4 『介護の基本Ⅱ』	授業への参加状況・各種提出物・グループ討議・小テスト・期末テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅲ		演習	小西 英範		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

視覚・聴覚に障害があることにより、日常生活を営むのに様々な制限が生じる。介護福祉士として特性を理解し、一人ひとりがもつ個性を尊重した生活支援技術とその根拠を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

視覚障害・聴覚障害者の日常生活を理解する。具体的な介護場面を想定した生活支援技術の講義や演習を通し、安全・安心そして信頼関係の大切さを習得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

常に相手の立場に立った支援ができる介護福祉士を目指す。特に視覚・聴覚以外の保有感覚の活用を促し、「話しかけ」「触れる」等の大切さを理解する。

コマ数	内 容
1	授業オリエンテーション 1. 視覚障害者の理解①
2	1. 視覚障害者の生活の理解②
3	1. 聴覚障害の理解①
4	2. 聴覚障害の生活の理解②
5	1. 生活支援と環境整備①
6	1. 生活支援と環境整備①
7	1. 介護技術の展開①
8	1. 介護技術の展開② 2. 歩行（移動）の介護技術①
9	1. 歩行（移動）の介護技術②
10	1. 歩行（移動）の介護技術③
11	1. 歩行（移動）の介護技術④
12	1. コミュニケーションに関する支援①
13	1. コミュニケーションに関する支援②
14	1. 身辺処理に関する支援
15	1. 就労に関する支援 2. 他職種の役割と協同・連携 3. 授業のまとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

1. 『生活支援技術Ⅲ』（中央法規出版） 2. 参考資料を配布	小テスト、レポート、授業態度（出欠を含む）の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	上記内容を数量化（100点満点）し、判定

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅳ	演習	石川 裕子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

家庭生活にかかわる基礎知識の中で、家庭生活の理解と家庭生活の営み（食生活）を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

日常生活を構成する上で最も基本的な単位となる家庭生活の構成要素（家庭経済健康管理と食生活）について学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

利用者ができるだけ今までと同じような環境の中で、在宅での生活ができるように生活設計の考え方、食生活の基礎知識を理解する。

コマ数	内 容		
1	生活支援とは何か	・生活支援の基本的な考え方(食生活支援の視点)	
2	家庭生活の理解	・家族・世帯・家事労働・介護予防	
3	家庭生活の理解	・家庭経営・家計の考え方	・消費者問題
4	家庭生活に関わる基礎知識	・食生活の基礎知識	・食文化
5	栄養の理解	・五大栄養素の働き	
6	栄養の理解	・栄養素の働き	・消化と吸収
7	栄養の理解	・栄養量の把握	・食事バランスガイド
8	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
9	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
10	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理
11	高齢者の生活と諸問題	・高齢者、障害者の低栄養状態と栄養補給	
12	他職種の役割とチームケア	・咀嚼と嚥下と栄養療法	・調理の配慮
13	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
14	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
15	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』

授業態度、出席状況、課題提出、テスト、課題提出物で総合的に評価

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅳ	演習	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

・利用者のもつ疾病や障害を理解し、疾病や障害の状況にあわせた生活機能を支援する技術を学ぶ。・利用者の現在の状態を把握し潜在能力を引き出し、自立できる援助の方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・利用者のもつ疾病や障害に対し、具体的なイメージが持てるようにする。・尊厳を持った支援をするための考え方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・個別性を考えた介護の展開ができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・状況に応じた生活支援技術について
2	運動機能障害に応じた介護
3	運動機能障害に応じた介護
4	運動機能障害に応じた介護
5	運動機能障害に応じた介護
6	運動機能障害に応じた介護
7	内部障害
8	内部障害
9	内部障害
10	内部障害
11	内部障害
12	障害に応じた支援技術
13	障害に応じた支援技術
14	障害に応じた生活支援技術
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ	小テスト：確認テスト及び感想、総合評価、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅲ	講義	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	4 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護に関する知識と技術を統合し、専門職としての「介護過程」の展開ができる思考過程を身につける。自立を目的とした適切な介護サービスを提供するために第三段階として、事例を総合的かつ客観的に分析ができること及びチームアプローチの必要性を理解し、実践できることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

「介護過程」の一連のプロセスを理解した上で、事例検討を通し、個別的な「介護過程」の展開方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・事例をもとに適切なアセスメントが行える。・事例ごとにICFの考え方を基本にしたアセスメントの根拠が述べられる。・事例ごとに適切な介護計画が立案できる。・事例ごとに立案した介護計画の根拠が説明できる。

コマ数	内 容
1	実習Ⅱ-Iで展開した介護計画振り返り①
2	介護過程の実際：実習Ⅱ-Iで展開した介護計画振り返り②
3	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習①
4	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習②
5	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習③発表
6	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習④
7	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習⑤
8	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習⑥発表
9	介護過程展開の実際：介護過程教科書 事例からグループワーク演習⑦
10	介護過程展開の実際：介護過程教科書 事例からグループワーク演習⑧
11	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習⑨発表
12	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習⑩
13	介護過程展開の実際：事例からグループワーク発表⑫
14	介護過程展開の実際：事例からグループワーク演習⑪
15	テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『介護過程』（中央法規）	グループワーク発表態度（小テストとして反映）／発表内容・授業積極性
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅲ	演習	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

実習Ⅱ-2に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習において発揮できるよう実践力を身に付ける。実習後は、十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようなる。

[授業全体の内容の概要]

実習Ⅱ-1で収集した情報をもとに行った事例研究を模擬論文としてまとめ発表し、次段階での介護過程の実践につなげる。少人数のゼミ体制をとり、個々の学生に対応した個別指導を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

・様々な利用者の生活を理解し、個別ケアとチームケアのあり方を理解できる。・個別ケアにおける介護過程の重要性と介護計画の立案に関する基本的な技術を習得する。・実習Ⅱ-1の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護福祉士として次段階実習に向けた自身の課題を明確化できる。

コマ数	内 容
1	実習Ⅱ-1振り返り／模擬論文作成に向けて 全体像
2	実習評価スーパービジョン／収集した情報の整理
3	情報の分析
4	統合化 課題の抽出
5	個別援助計画
6	実施及び結果
7	模擬論文の書き方(合同)
8	ケアプラン完成・論文構想の作成
9	模擬論文の作成／実習Ⅱ-2のねらい
10	模擬論文の作成／自己紹介書、実習目標の完成
11	模擬論文の作成／実習先事前学習(概要)
12	模擬論文発表会①
13	模擬論文発表会②
14	論文発表会振り返り
15	実習前スーパービジョン

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」	出席、グループワークへの取り組み、発表態度、小テストなどの総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅳ	演習	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

実習Ⅱ-2で展開した介護過程及び技術の振り返りを通して、介護福祉士有資格者として福祉業務に関わる自己について考え、今後の課題の明確化と自己肯定感を養う。

[授業全体の内容の概要]

ゼミことで振り返りを十分にした後、介護過程を事例研究して卒業論文としてまとめる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・介護過程を展開できる・他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

コマ数	内 容
1	実習Ⅱ-2の振り返り① 事例のまとめ
2	実習Ⅱ-2の振り返り② 研究計画書(論文構想)提出
3	事例研究① 研究計画書に基づき全体像の構想
4	事例研究② 参考文献の収集、論文作成/実習評価スーパージョン
5	事例研究③ 論文作成
6	事例研究④ 論文作成
7	事例研究⑤ 論文作成
8	事例研究⑥ 論文作成
9	事例研究⑦ 論文作成
10	事例研究⑧ 論文作成 抄録作成
11	事例研究⑨ 論文作成 論文提出(抄録・論文)
12	事例研究⑩ 発表原稿・スライド作成
13	事例研究⑪ 発表原稿・スライド作成
14	事例研究⑫ 発表原稿・スライド作成 卒論発表
15	論文発表および2年間の授業の振り返り

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」

ゼミグループ・授業参加態度・レポート等を総合的に勘案して評価する  
(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅱ-2	実習	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
25日間	3 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

一つの施設において一定期間実習を行い、援助全般について理解し、総合的学習ができる。一人の利用者を選び、利用者個々の生活リズムや個性に応じてた自立生活を前提に一連の介護過程の展開を行う。専門職としての介護福祉士の在り方を理解し、今後の自己の課題を明確にする。

[授業全体の内容の概要]

①介護過程の展開を一人の利用者を選び、指導者の指導の下に事例学習として実践する。②月単位で行われる施設業務全般の流れを理解するとともに、ケース会議、処遇会議などへ可能な場合は参加する。③早番、遅番、夜勤などの変則勤務を体験する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

実習Ⅰの目標に加え、生活支援技術の各分野において利用者のニーズに合わせた実践ができる、一連の介護過程の展開を実施できる。

コマ数	内 容
1	一つの施設において継続して実習を行い以下の体験をする。
2	実習先種別：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設等
3	要介護高齢者の日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解する。
4	自己目標を達成するために計画的に取り組む。
5	介護実践に必要な基本的な介護過程の展開を行う（情報収集、アセスメント、課題抽出、目標設定、計画作成、実施、評価、再アセスメント）。
6	自分の介護実践の根拠が説明できる。
7	利用者の状況に応じて適切な方法、手段を用いた介護技術を提供する。
8	チームにおける各職種の役割を知る。
9	介護理念・倫理について理解を深める。
10	利用者の個性性を尊重した自立支援を実践する。
11	利用者の生活の場における支援体制を理解する。
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

中央法規出版最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」、ナツメ社「介護用語辞典」

施設からの実習評価、実習ファイルの提出、巡回時の評価、所定時間の出席  
(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅱ	講義	利根川 都子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

認知症に関する理解を深め、本人だけでなく家族も含めたその人らしい生活を支えていく能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ・ビデオ、書籍などを通して認知症の理解を深める。
- ・グループ討議により、認知症の人や家族の心理を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・認知症の人への支援のあり方を理解する。

コマ数	内 容
1	認知症の予防 グループワーク
2	認知症の予防 発表・まとめ
3	環境の力
4	認知症の歴史 ケアなきケアの時代
5	認知症の歴史 提供者本位のケアの時代
6	認知症の歴史 本人本位のケアの時代
7	認知症関連の制度
8	パーソンセンタードケア
9	ユマニチュード
10	若年性認知症
11	家族のケア 虐待
12	家族のケア レスパイトケア
13	認知症の検査
14	認知症の薬物療法
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解	授業態度とテスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
障害の理解Ⅱ	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

障害の原因や特性、障害のある人の体験を理解するために基礎的知識を学ぶ。障害当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。

[授業全体の内容の概要]

精神障害、知的障害、発達障害についての原因と特性・特徴などについて理解を進める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

障害特性を理解した上で、障害当事者の苦しみや葛藤などの心のケアと当事者の利益に繋がる支援について習得する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	適応と適応規則（復習）
3	知的障害のある人の理解
4	知的障害のある人の理解
5	発達障害のある人の理解
6	発達障害のある人の理解
7	精神障害のある人の理解
8	精神障害のある人の理解
9	高次脳機能障害（認知機能について）
10	高次脳機能障害（認知機能について）
11	事例検討・応答トレーニング
12	家族への支援
13	連携と協働
14	事例検討・応答トレーニング
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士全書 11巻『障害の理解』  
(メヂカルフレンド社)

定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅣ	講義	佐久間 志保子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

生活支援を実践していく上での、根拠となる人体の心身構造を理解することにより、対象者に安全安楽な支援につなげられる知識を習得する。また、心身の状況がどのような要因から引き起こされるかを理解し、残存能力・潜在能力を引き出し、尊厳のある適切な援助方法を導き出す。

[授業全体の内容の概要]

人体の構造や機能に影響する老化・病気・障害を「こころ」と「からだ」のつながりを元に理解する。生活支援をする上での介助の行動とを結びつけて理解できるよう、授業書、視覚教材などを使用する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

人体の構造や機能に影響を及ぼすもの（老化・病気・障害）を理解する。また、人間としての欲求、尊厳、自分らしさを支える、こころの健康についても認識した援助者となる。

コマ数	内 容
1	第3章 こころとからだのしくみ 「身じたくを整える」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 人間にとっての「身じたく」 第2節 身じたくに関連する基礎知識
2	第3章 こころとからだのしくみ 第3節 身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第4節 機能の低下・障害が及ぼす影響 第5節 異常の発見
3	第4章 「活動」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 活動に関連する基礎知識 1身体の骨と関節、筋、神経の働き 第2節 活動と生活動作 1活動の目的と心理的意味 2日常生活動作
4	第4章 「活動」に関連したこころとからだのしくみ 3活動に必要な基本的な姿勢と動作 4活動により生じるからだの負担 5ボディメカニクス 6骨・筋肉の機能低下の影響
5	第4章 「活動」に関連したこころとからだのしくみ 第3節 活動の低下・障害が及ぼすこころとからだへの影響 1雇用症候群 2褥瘡 第4節 異常の発見のために注意すべき「変化」
6	第5章 「食事」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事に関する基礎知識 第2節 食事に関連したこころとからだのしくみ
7	第5章 「食事」に関連したこころとからだのしくみ 第3節 機能の低下や障害が及ぼす影響 第4節 安全な食事のための留意点
8	第6章 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持に関連する基礎知識 1人間を守る皮膚のしくみ
9	第6章 「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ 第2節 入浴・清潔保持の実際 第3節 機能の低下や障害が及ぼす影響 第4節 異常の発見のために注意すべき「変化」
10	第7章 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 排泄の意義としくみ 第2節 機能の低下や障害が及ぼす排泄への影響
11	第7章 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ 第3節 異常の発見 第3節 異常の発見のために注意すべき「変化」
12	第8章 「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ 第1節 睡眠に関連する基礎知識 第2節 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第3節 高齢者の睡眠障害
13	第9章 生き抜く人のこころとからだのしくみ 第1節 「死」のとりえ方 第2節 終末期から危篤時・死亡時のからだの理解 第3節 「死」に対するこころの理解 第4節 医療職との連携
14	高齢者の病気 高齢者の病気の特徴 1運動器系 2感覚器系 3消化器系 4呼吸器系 5循環器系 6泌尿器系 7神経代謝系 *生活習慣病
15	まとめ・テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

こころとからだのしくみ	履修後の試験、小テスト、出席状況の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	60点以上

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケアⅡ	演習	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケアを実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につなげる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を演習を通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全・適切に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション 医療的ケアの基礎 喀痰吸引
2	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔①
3	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔②
4	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔③
5	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔④
6	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑤
7	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑥
8	喀痰吸引のケア実施 口腔および鼻腔⑦
9	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部①
10	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部②
11	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部③
12	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部④
13	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑤
14	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑥
15	喀痰吸引のケア実施 気管カニューレ内部⑦

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

医療的ケア	レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以上
	(試験やレポートの評価基準など)
	ケアの実施の流れ(準備・実施・報告・片づけ・記録まで)と留意点について、すべての行為ごとの実施回数以上の演習を実施した上で、全ての項目について、5回目の実施において指導講師が手順通り実施できると認める。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケアⅢ	演習	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士として、「医療的ケアを実施することに対する意義の理解、安全に実施できるための実技指導、医療職に適切につなげる判断力の習得を目指す。

[授業全体の内容の概要]

「医療的ケア」が生活支援の一環としての行為を理解したうえで、「喀痰吸引」「経管栄養」の手法を演習を通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・安全・適切に施行できる。・実施が利用者の苦痛を取り除き、もしくは軽減に結びつけることができる。・利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結びつけることができる。・介護福祉士の社会的な介護ニーズに応え、介護の質を高めることができる。

コマ数	内 容
1	喀痰吸引のケア実施 まとめ①
2	喀痰吸引のケア実施 まとめ②
3	喀痰吸引のケア実施 まとめ③
4	医療的ケアの基礎 経管栄養
5	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう①
6	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう②
7	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう③
8	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう④
9	経管栄養のケアの実施 胃ろうまたは腸ろう⑤
10	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養①
11	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養②
12	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養③
13	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養④
14	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養⑤
15	経管栄養のケアの実施 経鼻経管栄養⑥

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新介護福祉全書 13巻 医療的ケア

レポート、小テスト、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、60点以

(試験やレポートの評価基準など)

ケアの実施の流れ(準備・実施・報告・片づけ・記録まで)と留意点について、すべての行為ごとの実施回数以上の演習を実施した上で、全ての項目について、5回目の実施において指導講師が手順通り実施できると認める。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
児童福祉論	講義	高橋 毅		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

子どもの成長・発達には、家庭及び地域・社会環境が大きく影響する。そこで、現代社会の状況を把握することにより、未来を担う子どもたちにとって今何が必要か、支援ニーズを明らかにし、支援の必要性・重要性について理解する。

[授業全体の内容の概要]

児童福祉の法体系や具体的なサービス体系の現状を学び、今日、児童福祉の課題となっている子ども虐待や子育て不安の問題について、原因や対応策について考える。その過程で児童福祉から児童・家庭福祉への視点の展開の必然性と新たな視点からの児童福祉の専門性について理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

専門職や生活者として、子どもや家庭が抱えている課題・ニーズに気づき、把握する感性、力を身につける。さらに、子ども一人ひとりの存在そのものが大切であるという確固たる信念に支えられた子ども・家庭福祉の基本的態度を身につける。

コマ数	内 容
1	子どもとは？～子どもたちの現状から考える～
2	現代の社会と子どもの育ち
3	世界は子どもの権利をどう護ってきたか－児童の権利保障・歴史的展開について
4	児童福祉とは？～子どもの権利条約から考える～
5	「児童福祉法」の概要 ①理念・原則・定義等
6	「児童福祉法」の概要 ②制度の概要
7	子ども家庭福祉を直接支える法律 ①－児童福祉6法
8	子ども家庭福祉を支えるその他の法律
9	児童福祉の実施体制 ①行政機関、関連機関
10	児童福祉の実施体制 ②児童福祉施設
11	子ども家庭にかかわる福祉の支援 ①－障害を持つ子どもへの支援－
12	子ども家庭にかかわる福祉の支援 ②－健全育成と子育て支援、ひとり親家庭への支援－
13	子ども虐待への対応－児童虐待防止法－
14	児童福祉から子ども家庭福祉への視座の転換
15	まとめ・テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
独自プリント	中間・期末試験50% レポート・出席状況・授業態度等総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
地域福祉論	講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事として必要な「地域福祉」の基本的知識を修得していく。
2. 同上の知識が介護・福祉全般の実践場面で、どう活用され、どのような課題を抱えているのか理解していく。
3. 上記の過程を通して、介護福祉士・社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 地域福祉の概念と歴史を理解する
2. 地域福祉の主体、団体・組織・専門職の役割を理解する
3. 地域福祉の方法論、地域福祉サービス、財源、地域福祉計画を理解する

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉行財政と福祉計画」の基礎的知識を修得している。
2. 上記の知識が社会福祉主事業務や保育・介護の実践場面においてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。
3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内 容
1	地域福祉の概念
2	地域福祉と住民参加
3	地域福祉の基盤と歴史
4	在宅福祉サービスと地域福祉
5	これからの地域福祉のあり方
6	地域福祉の主体
7	地域福祉に係る組織・団体の役割
8	地域福祉推進のための基盤組織
9	地域福祉に係る専門職の役割①
10	地域福祉に係る専門職の役割②
11	地域福祉の方法論
12	地域福祉支える地域福祉サービス
13	地域福祉の財源
14	地域福祉の計画化
15	まとめ；授業全体の総括

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1. 社会福祉双書「地域福祉論」（全国社会福祉協議会） 2. 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）	1. 小テスト；70% 2. 授業態度・意欲；30%の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	1. 小テスト；5点×14回＝70点 2. 授業態度；2点×15回＝30点 80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D(不合格)

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
福祉事務所運営論	講義	中本 宣弘		
授業の回数	(単位数)※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

福祉事務所、社会福祉主事の法的根拠・成立過程と展開、その機能と役割など基礎的知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

福祉事務所、社会福祉主事の法的根拠と成立過程・展開と具体的業務内容、そこで働く職員と専門性、倫理、福祉事務所の今日的課題を学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

対象となる利用者の人権擁護の視点・職業倫理を身につけ、他機関、職種との連携の下、利用者本位のサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。

コマ数	内 容
1	福祉事務所の成立と展開／社会福祉の歴史と実施体制(旧生活保護法の制定まで)
2	福祉事務所の成立と展開／現行生活保護制度の制定と社会福祉主事制度の制定
3	福祉事務所の成立と展開／福祉八法改正、介護保険法の制定、障害者支援費制度、地方分権、社会福祉基礎構造改革と福祉事務所
4	現代社会と福祉事務所の果たすべき役割と機能／迅速性・直接性・技術性。新たに求められている福祉事務所の役割／先見性、地域性、総合性、自立支援プログラムと貧困連鎖の克服
5	福祉事務所の設置、組織体制と職員体制
6	福祉事務所の専門職員とその役割
7	社会福祉主事の専門性・倫理と今日的課題／地位の二重性、「ソーシャルワーカーの倫理規範」、「ケースワーカーの自己反省」
8	社会福祉主事の専門性・倫理と今日的課題／公務員である意義、非現業機関化
9	福祉事務所と他機関・他職種との連携／連携の必要性、民生委員の役割
10	福祉事務所と他機関・他職種との連携／市町村保健センター、保健所、医療機関、児童相談所、庁内各部署、社会福祉協議会、ボランティア など
11	福祉事務所と生活保護制度／ケースワーカーという仕事(やりがいと人権感覚)
12	福祉事務所と障害福祉
13	福祉事務所と高齢者福祉
14	福祉事務所と母子及び婦人相談の仕事／保育・児童手当などの仕事
15	まとめと定期テスト

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『福祉事務所運営論』宇山・船水編著（ミネルヴァ書房）	①授業毎のレポート ②定期テスト ③出欠席など受講状況を加味
	(試験やレポートの評価基準など)
	①レポート 50% ②定期テスト 50%
	③ ①②をもとに出欠席など受講状況を加味し、60点以上を合

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉施設経営論	講義	神矢 孝之		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事に必要な「社会福祉施設経営論」(福祉サービスの経営)の基礎的知識を修得していく。2. 同上の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。3. 上記の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 社会福祉法人・施設の基礎知識について理解する。2. 社会福祉施設の経営・運営・管理に関する基礎理論について理解する。3. 社会福祉施設の経営・運営・管理の基本的な実際について理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉サービスの経営・運営管理」の基礎的知識を修得している。2. 上記の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どの様な課題を抱えているか理解している。3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内 容
1	社会福祉法人の意義
2	社会福祉事業の目的と社会福祉法人
3	社会福祉法人に求められる事業の在り方
4	社会福祉法人に求められる組織の在り方
5	社会福祉施設の役割(使命)
6	様々なサービス供給主体の参入と社会福祉施設の役割及び経営管理
7	社会福祉法人・施設の経営管理
8	社会福祉施設経営管理者に求められる役割行動
9	社会福祉施設の経営理念と経営戦略の策定
10	社会福祉施設の経営管理と問題解決
11	社会福祉施設におけるモチベーションと組織の活性化
12	社会福祉施設におけるチームワーク
13	社会福祉施設におけるリーダーシップとネットワーク
14	社会福祉施設のサービス管理
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

「学びを深める福祉キーワード集」(全国社会福祉協議会)	1. 小テスト ; 70%、 2. 授業態度・意欲 ; 30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	1. 小テスト ; 5点×14回=70点 2. 授業態度 ; 2点×15回=30点 【合計】 100点満点 ; 80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D(不合格)

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉施設経営論	講義	神矢 孝之		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 社会福祉主事に必要な「社会福祉施設経営論」(福祉サービスの経営)の基礎的知識を修得していく。2. 同上の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。3. 上記の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]

1. 社会福祉施設のサービス管理について理解する。2. 社会福祉施設のサービスの運営・管理の実際について理解する。3. 社会福祉施設の経営・管理に関する理論・実際について理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 社会福祉主事に必要な「福祉サービスの経営・運営管理」の基礎的知識を修得している。2. 上記の知識が福祉の実践場面に於いてどう活用され、どの様な課題を抱えているか理解している。3. 以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内 容
1	社会福祉サービスの品質マネジメント
2	リスクマネジメントとサービス管理
3	社会福祉サービスの評価
4	社会福祉施設における契約
5	社会福祉施設における権利擁護
6	社会福祉法人・施設における人事・労務管理
7	目標管理・人事考課制度の導入と効果的運用
8	職員処遇体系の見直しと適正化
9	社会福祉法人・施設における職員研修
10	社会福祉施設における労務管理
11	社会福祉施設における会計管理と財務管理
12	社会福祉施設の情報管理
13	社会福祉施設の施設整備管理・建物、設備管理
14	危機管理；防火防災対策
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「学びを深める福祉キーワード集」(全国社会福祉協議会)	1. 小テスト ; 70%、 2. 授業態度・意欲 ; 30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	1. 小テスト ; 5点×14回=70点 2. 授業態度 ; 2点×15回=30点 【合計】 100点満点 ; 80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D (不合格)

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者	
キリスト教倫理	講義	佐藤 貴仁	
授業の回数 (単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ 2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

『人間である』ことから『人間になる』ことへ。これが、この授業の最大のテーマです。そして、それを生徒さんと一緒に考えながら、広大な聖書の中から汲み取ることができれば幸いです。キリスト教的世界観を学ぶことによって、一人一人が、本当の自分に出会う、自分探しの旅を始めていくことができるようにと願います。

[授業全体の内容の概要]

旧約聖書を通しては、神によって造られ神のかたちである人間の本来の生と、罪によって歪められた神のかたちである人間の歴史を、新約聖書を通しては、その神のかたちの回復のために2000年前にこの世界に来られたイエス・キリストを学ぶことにおいて、人間本来の神のかたちとしての生き方を学びます。

[授業修了時の達成課題 (到達目標)]

生徒個人が自分の生き方を考え、社会に出てどのように人とかかわっていくかを、それぞれが模索する中、学びの結論付けをしていただければよい。ひとつひとつの課題において、自分なりにそのテーマごとに考えて発言していける力、その考えを文章にしていく力を備えられることができるように。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	宗教とは
3	キリスト教の歴史
4	創造主である神
5	人格としての神
6	神のかたちとしての人間
7	罪により損なわれた人間
8	イエス・キリストの生涯と教え
9	イエス・キリストの十字架と復活
10	キリスト教といのち
11	キリスト教と結婚
12	キリスト教と教育
13	キリスト教と平和
14	まとめ
15	定期試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

旧新約聖書 (新共同訳)	出欠と授業態度と、小テスト、期末レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
キリスト教倫理	講義	佐藤 貴仁		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

『人間である』ことから『人間になる』ことへ。これが、この授業の最大のテーマです。そして、それを生徒さんと一緒に考えながら、広大な聖書の中から汲み取ることができれば幸いです。キリスト教的世界観を学ぶことによって、一人一人が、本当の自分に出会う、自分探しの旅を始めていくことができるようにと願います。

[授業全体の内容の概要]

旧約聖書を通しては、神によって造られ神のかたちである人間の本来の生と、罪によって歪められた神のかたちである人間の歴史を、新約聖書を通しては、その神のかたちの回復のために2000年前にこの世界に来られたイエス・キリストを学ぶことにおいて、人間本来の神のかたちとしての生き方を学びます。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

生徒個人が自分の生き方を考え、社会に出てどのように人とかかわっていくかを、それぞれが模索する中、学びの結論付けをしていただければよい。ひとつひとつの課題において、自分なりにそのテーマごとに考えて発言していける力、その考えを文章にしていく力を備えられることができるように。

コマ数	内 容
1	ルーツⅠ 系図と過去の振り返り
2	ルーツⅡ identity
3	ルーツⅢ communication
4	ルーツⅣ ゆるすこと
5	ルーツⅤ 自己批判と自己非難
6	ルーツⅥ 自己愛と利己愛
7	精神病理Ⅰ 統合性失調症・躁鬱病・人格障害
8	精神病理Ⅱ 依存症・虐待・パニック障害
9	キリスト教的カウンセリングⅠ
10	キリスト教的カウンセリングⅡ
11	死についてⅠ
12	死についてⅡ
13	キリスト教と福祉
14	まとめ
15	定期試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

旧新約聖書（新共同訳）	出欠と授業態度と、小テスト、期末レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者			
人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	杉浦 由美子			
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第1学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

利用者の主体的な生活を支援していくために利用者理解が不可欠である。利用者の思いや意欲を引き出すコミュニケーション能力が必要となる。また、チームケア、多職種連携を実践するには利用者の共通理解を促すコミュニケーション能力が必要となる。利用者の生活支援に必要な基礎的なコミュニケーション技法を身に付けることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

支援者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

支援・自己理解や他者理解から人間関係の形成について考えることができる。  
 ・信頼される人間を具体的にイメージでき人間関係の在り方を理解することができる。  
 ・自分の思いや考えを整理してわかりやすく説明することができる。  
 ・他者が自分のことを緊張することなく話ができるように傾聴を主体としたコミュニケーションが図れることができる。  
 者としての自己理解、他者理解、人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎知識を視点におき授業を展開する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション（授業の目的・概要説明）、自己紹介
2	人間と人間関係（講義・演習）
3	対人関係におけるコミュニケーション（講義・演習）
4	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
5	対人援助関係とコミュニケーション①（講義・演習）
6	組織におけるコミュニケーション①（講義・演習）
7	組織におけるコミュニケーション②（講義・演習）
8	介護実践におけるコミュニケーション①（講義・演習）
9	介護実践におけるコミュニケーション②（講義・演習）
10	ケアを展開するためのチームマネジメント①（講義・演習）
11	ケアを展開するためのチームマネジメント②（講義・演習）
12	ケアを展開するためのチームマネジメント③（講義・演習）
13	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①（講義・演習）
14	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②（講義・演習）
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント（講義・演習）

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

- ・最新介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」中央法規
- ・ナツメ社 「介護用語辞典」

授業参加態度、レポートなどを総合的に判断する。

(試験やレポートの評価基準など)

授業参加態度(授業への参加度、発言、積極性)課題レポート(内容、期日)

## 授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅴ	演習	内田 智美		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

**[授業の目的・ねらい]**

視覚・聴覚に障害があることにより、日常生活を営むのに様々な制限が生じる。介護福祉士として特性を理解し、一人ひとりがもつ個別性を尊重した生活支援技術とその根拠を学ぶ。

**[授業全体の内容の概要]**

視覚障害・聴覚障害者の日常生活を理解する。具体的な介護場面を想定した生活支援技術の講義や演習を通し、安全・安心そして信頼関係の大切さを習得する。

**[授業修了時の達成課題（到達目標）]**

常に相手の立場に立った支援ができる介護福祉士を目指す。特に視覚・聴覚以外の保有感覚の活用を促し、「話しかけ」「触れる」等の大切さを理解する。

コマ数	内 容
1	授業オリエンテーション 1. 視覚障害者の理解①
2	1. 視覚障害者の生活の理解②
3	1. 聴覚障害の理解①
4	2. 聴覚障害の生活の理解②
5	1. 生活支援と環境整備①
6	1. 生活支援と環境整備①
7	1. 介護技術の展開①
8	1. 介護技術の展開② 2. 歩行（移動）の介護技術①
9	1. 歩行（移動）の介護技術②
10	1. 歩行（移動）の介護技術③
11	1. 歩行（移動）の介護技術④
12	1. コミュニケーションに関する支援①
13	1. コミュニケーションに関する支援②
14	1. 身辺処理に関する支援
15	1. 就労に関する支援 2. 他職種の役割と協同・連携 3. 授業のまとめ

**[使用テキスト・参考文献]**

**[単位認定の方法及び基準]**

1. 『生活支援技術Ⅲ』（中央法規出版） 2. 参考資料を配布	小テスト、レポート、授業態度（出欠を含む）の総合評価 （試験やレポートの評価基準など） 上記内容を数量化（100点満点）し、判定
------------------------------------	--

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術VI	演習	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

家庭生活にかかわる基礎知識の中で、家庭生活の理解と家庭生活の営み（食生活）を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

日常生活を構成する上で最も基本的な単位となる家庭生活の構成要素（家庭経済健康管理と食生活）について学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

利用者ができるだけ今までと同じような環境の中で、在宅での生活ができるように生活設計の考え方、食生活の基礎知識を理解する。

コマ数	内 容		
1	生活支援とは何か	・生活支援の基本的な考え方(食生活支援の視点)	
2	家庭生活の理解	・家族・世帯・家事労働・介護予防	
3	家庭生活の理解	・家庭経営・家計の考え方	・消費者問題
4	家庭生活に関わる基礎知識	・食生活の基礎知識	・食文化
5	栄養の理解	・五大栄養素の働き	
6	栄養の理解	・栄養素の働き	・消化と吸収
7	栄養の理解	・栄養量の把握	・食事バランスガイド
8	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
9	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
10	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理
11	高齢者の生活と諸問題	・高齢者、障害者の低栄養状態と栄養補給	
12	他職種の役割とチームケア	・咀嚼と嚥下と栄養療法	・調理の配慮
13	食品の安全性	・食品の保存	・表示の見方 ・選択と購入
14	高齢者の栄養	・献立の立て方	・高齢者の食事摂取基準
15	疾病と食事	・生活習慣病と食事療法	・水分管理

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』	授業態度、出席状況、課題提出、テスト、課題提出物で総合的に評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅶ	演習	黒木 久子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

・利用者のもつ疾病や障害を理解し、疾病や障害の状況にあわせた生活機能を支援する技術を学ぶ。・利用者の現在の状態を把握し潜在能力を引き出し、自立できる援助の方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・利用者のもつ疾病や障害に対し、具体的なイメージが持てるようにする。・尊厳を持った支援をするための考え方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・個別性を考えた介護の展開ができる。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・状況に応じた生活支援技術について
2	運動機能障害に応じた介護
3	運動機能障害に応じた介護
4	運動機能障害に応じた介護
5	運動機能障害に応じた介護
6	運動機能障害に応じた介護
7	内部障害
8	内部障害
9	内部障害
10	内部障害
11	内部障害
12	障害に応じた支援技術
13	障害に応じた支援技術
14	障害に応じた生活支援技術
15	科目修了試験

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ	小テスト：確認テスト及び感想. 総合評価、60点以上を合格とする
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
障害の理解Ⅱ	講義	中村 美代子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

障害の原因や特性、障害のある人の体験を理解するために基礎的知識を学ぶ。障害当事者のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。

[授業全体の内容の概要]

精神障害、知的障害、発達障害についての原因と特性・特徴などについて理解を進める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

障害特性を理解した上で、障害当事者の苦しみや葛藤などの心のケアと当事者の利益に繋がる支援について習得する。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション
2	適応と適応規則（復習）
3	知的障害のある人の理解
4	知的障害のある人の理解
5	発達障害のある人の理解
6	発達障害のある人の理解
7	精神障害のある人の理解
8	精神障害のある人の理解
9	高次脳機能障害（認知機能について）
10	高次脳機能障害（認知機能について）
11	事例検討・応答トレーニング
12	家族への支援
13	連携と協働
14	事例検討・応答トレーニング
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

最新・介護福祉士全書 11巻『障害の理解』  
（メヂカルフレンド社）

定期試験、提出物など総合的に評価し、60点以上を合格とする。

（試験やレポートの評価基準など）

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
基礎ゼミⅡ		講義	石島 美紀		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験	
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○	

[授業の目的・ねらい]

自分特有の考え方や表現方法について気づく。また、自分の考えを分かりやすく説明すること、他の人の考え方を聴くこと、議論することを通し、自分の考えを文章化することを目的とする。対人援助の専門職の基礎能力として求められる観察能力、感性を高めるとともに、それを文章化し伝える能力を習得する。

[授業全体の内容の概要]

各担当教員の専門領域からのトピックについて考え、議論し、文章化する。必要に応じて自分の考えを裏付ける資料を作成することも求める。5~6回のオムニバス形式で実施する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

言葉で説明すること、文章で表現することを学び、それを実習記録や卒業論文につなげる。

コマ数	内 容
1	トピック1：自由に考えを述べる
2	トピック2：議論する(ディベート)
3	トピック3：議論する(ディベート)
4	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
5	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
6	トピック1：自由に考えを述べる
7	トピック2：議論する(ディベート)
8	トピック3：議論する(ディベート)
9	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
10	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
11	トピック1：自由に考えを述べる
12	トピック2：議論する(ディベート)
13	トピック3：議論する(ディベート)
14	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
15	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

なし	発表への取り組み、出席、授業参加意欲、レポートの提出の総合評価。前
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
社会福祉現場実習指導Ⅱ	講義	大西 史浩		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

第1段階をふり返りながら、実習目標の到達点を確認するとともに自己の課題を認識する。また、実習体験の効果的な定着を図る。

[授業全体の内容の概要]

実習課題についてふり返りワークシートを作成し、グループによる体験の共有化を行う。また、施設からの評価表と実習記録をもとに事後指導を行い、目標達成度・課題の整理、スーパービジョンによるふり返りを行う。さらに課題を明確にし、総括レポートとしてまとめる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

自らの実習をふり返り、自己評価、施設からの評価、グループ討議、スーパービジョンにより、現場体験において培った知識、援助技術の内容の理解を深める。

コマ数	内 容
1	実習のふり返りⅠ（ふり返りの意義、ふり返りワークシートの作成）
2	実習のふり返りⅡ（グループでの体験報告・話し合い）
3	実習のふり返りⅢ（実習事後指導、目標達成度・課題の整理）
4	実習のふり返りⅣ（実習事後指導、目標達成度・課題の整理）
5	実習のふり返りⅤ（実習事後指導） 地域と施設の関係
6	福祉専門職としてのあり方と自己覚知
7	実習総括レポートの作成
8	実習総括レポートの作成
9	実習総括レポートの作成
10	実習総括レポートの作成
11	実習総括レポートの作成
12	実習総括レポートの作成
13	実習総括レポートの作成
14	実習総括レポートの作成
15	実習総括レポートの作成

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

『社会福祉小六法』

各種レポートの提出状況 グループ討議・授業への参加状況 期末テスト

(試験やレポートの評価基準など)

総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)	授業の種類	授業担当者		
家庭福祉論	講義	高橋 毅		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]

近年、高齢化、小家族化の進行等により、家族の養育・介護力の低下が指摘されている。それ故に、家族に対する支援の促進・充実喫緊の課題である。本授業では、家族を取り巻く現代社会の状況及び家族が抱える問題・課題等を知ることにより、ひとりひとりが家族の福祉、幸せについて考える姿勢を涵養しつつ、家族福祉向上のための支援の必要性について理解を深めることを目指す。

[授業全体の内容の概要]

家族の意味・役割・機能、家族をとりまく諸状況を福祉（家族の幸せ）の面からとらえ、家族支援のための基本的な姿勢、社会資源等諸サービスとその具体的展開、関係機関との連携等について資料を活用し、グループワーク学習を取り入れる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

専門職や生活者として、介護者やその他家族が抱えている課題・ニーズに気づく感性・力を備え、問題解決に取り組む家族福祉専門職としての基本的態度を身につける。

コマ数	内 容
1	オリエンテーション・家族の歴史
2	家族とは何か？ 家族の意味、家族の役割、家族の機能
3	家族をとりまく社会的状況
4	家族支援の必要。地域社会の変容との関係
5	現代の家庭における人間関係・家庭とはどんな物なのか？
6	育児と仕事の両立、育児と男女参画
7	家庭福祉を支援する社会資源
8	家族の現代的課題(グループワーク)①
9	家族の現代的課題(グループワーク)②
10	障がい児・者のいる家族
11	高齢者のいる家族
12	ひとり親家庭とその支援
13	児童、障がい児・者、高齢者の虐待とその対応
14	授業の振り返り
15	家庭福祉論のまとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
児童家庭福祉論	試験50% レポート・出席状況・授業態度等総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授 業 概 要

(科目名)		授業の種類	授業担当者		
高齢者と障害者の福祉制度Ⅱ		講義	杉浦 由美子		
授業の回数	(単位数) ※	配当学年		必修・選択	実務経験
15コマ	2 単位	第2学年		必修	○

[授業の目的・ねらい]

1. 介護福祉士の業務遂行に必要な福祉制度の知識を習得する
2. 介護の実践場面における福祉課題に、福祉制度がどのように活用されるのか理解する
3. 介護福祉士が従事する制度を正しく理解し、公助・共助の連携の中で介護福祉士に求められる役割を理解する

[授業全体の内容の概要]

2. 障害者に関する制度の基礎的枠組みを理解する
2. 権利擁護、保健医療による制度の概要を理解する。
3. 生活困窮、就労支援他、地域での生活に関する制度の概要を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 介護福祉に必要な福祉制度の知識を習得している
2. 介護福祉士が従事する場における、障害者総合支援制度の役割・機能が理解できている。
3. 地域共生社会の実現に向けた支援システムにおける介護福祉士の役割・機能が理解できている。

コマ数	内 容
1	障害者保健福祉の動向①（小テスト）
2	障害者保健福祉の動向②
3	障害者保健福祉に関する法体系①
4	障害者保健福祉に関する法体系②
5	障害者総合支援制度① 自立支援給付と地域生活支援事業
6	障害者総合支援制度② 障害区分認定
7	中間振り返り
8	個人の権利を守る制度・施策①
9	個人の権利を守る制度・施策②
10	個人の権利を守る制度・施策③
11	保健医療に関する制度・施策①
12	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策
13	地域生活を支援する制度・施策①
14	地域生活を支援する制度・施策②
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	定期試験による評価60%、授業に臨む姿勢、出席、遅刻の状況40%
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。